



第 31 号

R3.1.14

文責 倉迫

建学 145 年

人権教育指導室から次のような文書が来ました。～前略～ 日本赤十字社の方がこんなことを話されていました。「差別や偏見と言える事例が強調され過ぎると、差別被害への恐怖心をあおり負のスパイラルが起こってしまう。差別や偏見を広げないためには、ネガティブな情報に偏らず、人と人とのつながりの中でのポジティブなエピソードやメッセージが必要である」と。そこで、前田さんの話が紹介されていました。～後略～

私は、料理屋さんを営んでいるので、これまでも手洗いは徹底していましたし、マスク、うがい、アルコール消毒など、できる限りの感染対策をしていました。しかし、私は新型コロナウイルスに感染してしまいました。

高熱が出て、呼吸がとても苦しく、人工呼吸器を2週間つけていました。45日間入院しましたが、体重は13キロも減っていました。その間、看護師さんがつきっきりで世話をしてくださいましたが、看護師というお仕事は、本当に大変で尊いお仕事だなと思います。心から感謝しています。やっと退院できた日には、看護師さんやお医者さんなど、病院関係の皆さんで見送ってくださり、本当にうれしかったです。

私は、新型コロナウイルスに感染した時、お店の名前を公表しました。誹謗中傷など心配もあり悩みましたが、やはりお店に来ていただいているお客様の命を守ることが一番、そして感染が広がるのを防ぐことが大事だなと決断しました。私は、店名公表をしてよかったなと思っています。感染拡大を防ぐことができ、また、いつもお店に来ていただいているお客様や、近所の方、そして全国の方々から励ましのお手紙や電話をもらったからです。私の息子が通っている中学校からも連絡があり、「学校を挙げて、全力で息子さんを守ります。」と言ってくださいました。息子に「どうだい。」と様子を聞くのですが、その当時も、そして現在も、「何もいやな思いはしていない。」と言います。学校の友達やその保護者の方、先生方、地域の方の温かさや優しさが、とっても嬉しいです。

今、日本では感染者探しをしたり様々な誹謗中傷があつたりしているというニュースも聞きます。やはり誰もが、見えないウイルスに対して大きな不安をもっているからだろうと思います。でも、それでウイルスをやっつけることができるのでしょうか。新型コロナウイルスに感染した時、私には、家族や友達の励ましが、病気に立ち向かうとても大きな力になりました。退院した時、普段からよく行くケーキ屋の店員さんは、涙を流して喜んでくれました。人生で一番つらいと思うほどの経験でしたが、人の温かさや優しさを直に感じることができました。皆さんにも、そういった思いやりを他の人に与えられる人になってほしいです。そして、そんな学校や地域でいたいですね。

今ある幸せを大切に、一人がみんなのために、みんなが一人のために、新型コロナウイルスと闘っていきましょう。

早い時期に新型コロナウイルスに感染し、治癒された後に自らの体験を多くの方に語っていらっしゃる前田強さん（馬肉料理店「二代目天國」店主）をお願いをして、これまで講演や授業の中で語ってこられたお話を園や学校に紹介させていただくことにしたとのことです。

前田さんのお話をまとめた文章を学校や園に送りたいと伝えたところ、前田さんから次のような言葉が返ってきました。



前田強さん
（馬肉料理「二代目天國」店主）

「子ども達や先生方が安心して学校生活を送れるよう祈っています。」

私たちも同じ思いです。

人権教育指導室（熊本市教育委員会）からの文書を紹介しました。

この話を受けての私の始業式での話になりました。

卒業に向けて

熊本県独自の「緊急事態宣言」が出された中ですが、6年生は卒業に向けて準備を進めています。「今ある中での最善」を考え、各



チームに分かれ、アイデアを出し合いながら話し合っています。これまでお世話になってきた地域の方、保護者の方、先生たち、また在校生へ、学校に、6年生のどんな思いが表現されるのかとても楽しみです。卒業式もこれまでとは趣のやや異なる式になると思いますが、卒業生の思いは大切にしたいと考えています。

ます。